

第5学年社会科学学習指導案

日時 令和4年9月6日(火) 5校時

児童 5年1組 27名

指導者 宮守 基光

1 単元名 未来を支える食料生産 3 これからの食料生産(「小学社会5年(教育出版)」)

2 単元について

これまでに、「米づくりのさかんな地域」では、外国産米との競争について、また、「水産業のさかんな地域」では輸入の多さについて学びながら、生産に関わる人の工夫と願いを学習してきた。

本単元では、日本の食料自給率の低さと輸入依存度の高さを捉え、国内の食料生産が向き合う課題や、発展させていくための取り組みについて、多角的な視点で学んでいく。そして、今後の国内の食料生産の発展について、これまでの学習を関連付け、できることを考えていくことをねらいとしている。

3 児童について

年度当初よりも社会科の学習に興味をもって取り組む児童が増えている。これは、米作りや水産業の学習を通して、社会科が自分たちの生活に身近に関わっていることを実感しながら学習できたからである。

資料の読み取りや、発表に苦手意識をもっている児童がいる反面、グループでの話し合いの中では、積極的に友達と関わりながら学習を進めていく姿も見られる。









4 単元の目標

- (1) 我が国の食料生産の概要や、食料生産が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 **【知識及び技能】**
- (2) 食料の生産や輸入に見られる課題を把握して、その解決に向けて多角的に考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- (3) 我が国の食料の生産や輸入について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。 **【学びに向かう力、人間性等】**

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 輸入など外国との関わり、生産量の変化、生産に関わる新しい取り組みなどについて、地図帳や地球儀、統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の概要を理解している。	① 輸入など外国との関わり、生産量の変化、生産に関わる新しい取り組みなどに着目して、問いを見だし、食料生産の概要や食料生産が国民生活に果たす役割について考え、表現している。	① 我が国の食料の生産や輸入について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 調べたことを文や表などにまとめ、我が国の食料生産は、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。	② 学習したことともに、これからの農業などの発展に向けてできることを消費者や生産者の立場から多角的に考え、適切に表現している。	② 学習したことをもとに、これからの農業などの発展について消費者や生産者の立場から多角的に考えようとしている。

6 指導と評価の計画 ※網掛けは評価したことを記録に残す評価 太字は指導に生かす評価

時	ねらい	評価方法と【評価規準】	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 本時	食料輸入の現状に着目して、これからの食料生産や輸入の進め方についての学習問題をつくることができるようにする。	ノートの記述や発言内容から「資料から読み取ったことをもとに、これからの食料の生産や輸入に関する学習問題をつくり、表現しているか」を評価する。【思一①】 ノートの記述や発言内容から「これからの食料の生産や輸入に関して予想を話し合い、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしているか」を評価する。【態一①】	 興味や関心を高める	 思考を表現に置き換える	
	学習問題：国内の食糧生産を発展させていくためには、どうしていけばよいのだろう。				
2	食料の輸入について、長所と短所、消費者と生産者の立場など、多角的な視点で整理し、安定的な食料の確保のためには国内生産の果たす役割も大きいことも理解できるようにする。	ノートの記述や発言内容から「食料を輸入することの長所と短所について、資料を的確に読み取って整理し、安定的な食料の確保のためには国内生産の果たす役割も大きいことを理解しているか」を評価する。【知一①】	 見通しを持つ	 共に考えを創り上げる	
3	国内の食料生産の課題を解決するための取り組みに着目して、国内で食料を生産し、安定して確保するには様々な立場からの協力が大切であることを理解できるようにする。	ノートの記述や発言内容から「国内の食料生産を発展させていくための取り組みについて、生産や販売、消費などの面から多角的に理解しているか」を評価する。【知一②】	 粘り強く取り組む	 思考を表現に置き換える	
4	これまでの学習を整理して、国内の食料生産の発展に向けてできることを、生産者の立場と消費者の立場を関連付けながら考え、これからの生産や食生活について、まとめることができるようにする。	ノートの記述や発言内容から「食料生産に関わる人々の働きや、消費と生産の関わりなど、調べて分かったことをもとに、これからの食料生産の発展について考え、適切に表現しているか」を評価する。【思一②】		 互いの考えを比較する	 知識・技能を活用する
5		ノートの記述や発言内容から「調べたことを生かして、これからの食料生産の発展や食生活のあり方について自分の考えをまとめようとしているか」を評価する。【態一②】			

7 本時の指導計画

(1) 目標

食料輸入の現状に着目して、これからの食料生産や輸入の進め方についての学習問題をつくり、追究の見通しをもつことができるようにする。

(2) 評価規準

観点	概ね満足できる児童の姿	努力を要する児童の手立て
思考・判断・表現 食料輸入の現状に着目して、これからの食料生産や輸入の進め方について学習問題をつくり、表現している。 主体的に学習に取り組む態度 これからの食料の生産や輸入に関して予想を話し合い、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。	これからの国内の食料生産や輸入の進め方について予想し、学習問題をつくり、表現している。	写真や国内の食料生産量、自給率の変化のグラフに着目させ、これからどのように変化していくのかを予想させる。

(3) 手立て

① 少人数においての話し合いの手立て



- ・3人グループをつくり、資料から読み取ったことや、考えたことを交流することで、さらに考えを深めたり、根拠をもった説明につなげたりする。☆1

② 全体での話し合いの手立て

- ・資料を電子黒板に提示することで焦点化を図り、話し合いの視点を明確にする。☆2
- ・今後の変化についての予想や気になることについて、全体発表につなげる。☆2

(4) 展開

段階	学習活動 発問 (○)・予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価
つかむ 7分	1 問題をつかむ ○ 日本では、外国産の食料は食べられていますか。 C 外国から水産物を輸入している。 C 外国産の米との競争があることを勉強した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 日本では、必要な食料をどのように調達しているのだろう。 </div> 2 学習の見通しをもつ ○ 日本では、どれくらいの食料を輸入していると思いますか。 C 日本で食べられている食料の半分くらいを輸入している。 C 3分の1くらいを輸入している。	・「輸入」、「外国産」という言葉とともに、前単元までの学習を振り返る。 ・近年の米作りや水産業での課題を思い出し、外国からの輸入量が増えていることに触れる。

<p>深 め る 30 分</p>	<p>3 資料を調べ考える</p> <p>(1) ア, イの資料からどんなことが読み取れるか、考える。</p> <p>C ~は何パーセントくらいが輸入だと思う。</p> <p>C ~はあまり輸入していないと思う。</p> <p>C 世界のいろいろな国から、食料を輸入している。</p> <div style="text-align: center;">  <p>興味や関心を高める</p> </div> <p>(2) ウ, エの資料からどんなことが読み取れるか、考える。</p> <p>C ウの資料からは、野菜や魚、貝類、果物の生産量が減っていることが分かる。</p> <p>C エの資料からは、主な食料の自給率が下がっていることが分かる。</p> <p>○ ウ, エの2つの資料から、これからの食料生産や自給率の変化を予想しましょう。</p> <p>C 野菜や魚・貝類の生産量が減り続け、自給率もさらに下がっていく。</p> <p>C 小麦はこれからも生産量も自給率も低い。</p> <p>4 資料から考える</p> <p>○ なぜ、国内の生産量が減って、食料自給率が下がってきたのでしょうか。</p> <p>C 国内の生産者が減ったから。</p> <p>C 生産量が減った分、外国から輸入しているために自給率が下がったから。</p> <p>C 外国の安い食料の輸入が増えたので、国内の生産量が減った。</p> <p>C 飛行機で外国のものを大量に運べるようになって、輸入が増えたから。</p> <p>C 技術の発達で、外国のものを新鮮なまま届けることができるようになったから。</p> <div style="text-align: center;">  <p>思考を表現に置き換える</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板にアの資料を映し出し、児童の興味・関心を引くようにする。 ・アの資料から輸入の割合を児童に予想させ、馴染みのある食材の多くが、実は外国産であることを捉えさせる。 ・イの資料からは、主な輸入相手国としてどんな国があるのかという外観をつかむ。(イの資料は紙板書でも掲示しておく。) ・ウ, エの資料をタブレットに提示し、それぞれのグラフから読み取ったことをもとに、少人数で話し合わせる。(☆1) ・2つの資料を関連させて説明することが難しい児童には、グラフの変化や共通点を探させるようにする。 ・資料ウ, エを電子黒板に提示し、生産量、自給率、割合などのキーワードを使って、関連付けながら今後の見通しを予想させる。(☆2) ・輸入が増えてきたことを、様々な視点から考えさせたい。
--	---	--

	<p>5 学習問題をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国内の生産量が減り続け、輸入量が増え続けることをどう思いますか。 C 安全性などに少し不安がある。 C 安く買えるので良いところもある。 ○ 生産者の思いはどうでしょう。 C 国内の生産者は困ると思う。 C 国産のものをもっと食べてほしい。 C たくさん買ってほしい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>国内の食料生産を発展させていくためには、どうしていけばよいのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りや水産業の学習を振り返り、生産者が外国との競争にさらされている現状を踏まえながら、国内の食料生産を発展させていくためにはどうしたらよいかという問題意識をもたせる。 ・輸入は、今後も日本の食料事情を支えるうえで欠かすことのできないものであることを押さえたうえで、国内の生産に目を向けさせる。 <p>思考・判断・表現 食料輸入の現状に着目して、これからの食料生産や輸入の進め方について学習問題をつくり、表現している。(発言・発表、ノート)</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 これからの食料の生産や輸入に関して予想を話し合い、それをもとに学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。(発言・発表、ノート)</p>
<p>振り返る 10分</p>	<p>6 振り返りをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 振り返りをノートに書く。 (2) 全体で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りは各自ロイロノートにまとめ、提出する。 <p>(分かったこと、疑問に思ったこと、新たに調べてみたいこと)</p>

(5) 板書計画

9月6日(火)

学習問題

日本では、必要な食料をどのようにして調達しているのだろう。

予想

資料ウ

資料エ

〈主な食料の生産量と自給率の変化〉

電子黒板

輸入が増えることをどう思うか？

△安全面に不安 ○安く買える

今後も輸入は必要

国内の生産者の思い・・・
生産を続けたい
食べてほしい、買ってほしい

↓

学習問題

国内の食料生産を発展させていくには、どうしていけばよいのだろう。

資料イ

〈日本が食料を輸入している主な相手国〉